

2022年3月期 第1四半期決算説明資料

株式会社IMAGICA GROUP

証券コード：6879

2021年8月3日



1

- ✓ 全社のれん償却前利益は黒字化、2020年3月期（コロナ禍前）を上回る水準を確保（4,7頁）

2

- ✓ 映像制作サービス（海外）は、Pixelologicが好調にスタート、2Q以降の成長と収益性に手応え（11頁）

3

- ✓ 映像制作サービス（国内）は、構造改革効果により大幅増益（9頁）
- ✓ 映像コンテンツの利益水準は、2020年3月期（コロナ禍前）まで回復（8頁）

4

- ✓ 2022年3月期通期業績予想の経常利益と（+7億円）当期純利益を20億円（+12億円）に上方修正（13頁）

(参考) のれん償却前営業利益の開示について

当第1四半期より、当社グループの実態により適合した経営状況をお伝えするため、「のれん償却前営業利益」を主要指標の1つとして開示いたします。

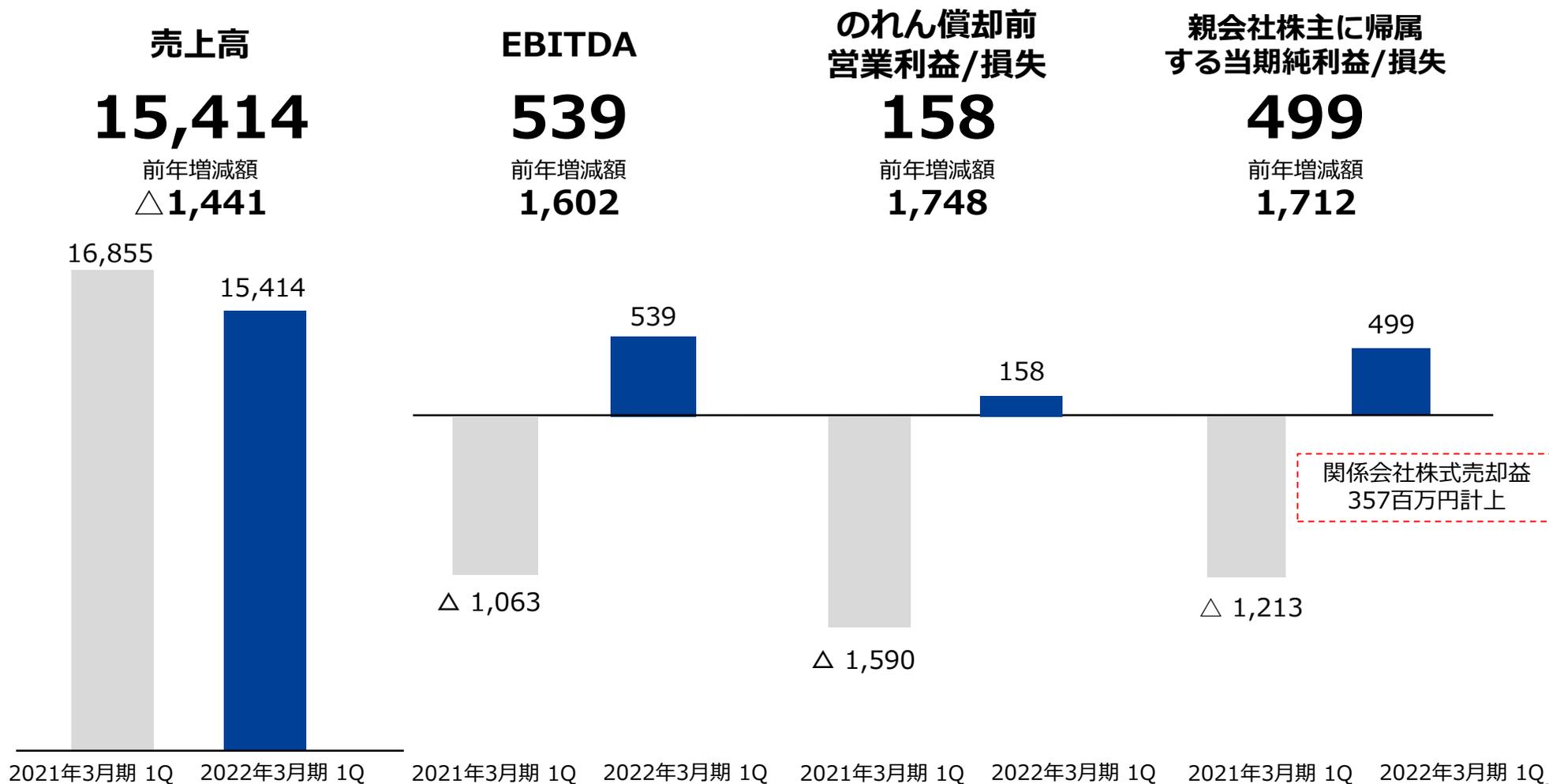
(単位：百万円)	2022年3月期 1Q	2022年3月期 通期	新中期経営計画 「G-EST2025」
	実績	計画	目標
売上高	15,414	75,000	100,000
営業利益	△255	1,500	
のれん償却前営業利益	158	3,100	8,000

のれん償却前営業利益 = 営業利益 + のれん償却 + M&Aに伴う無形固定資産償却

第1四半期（累計） 決算ハイライト

- 売上は海外子会社（SDI）売却影響により減収
- のれん償却前営業利益は黒字で前年から17億円の改善

（単位：百万円）

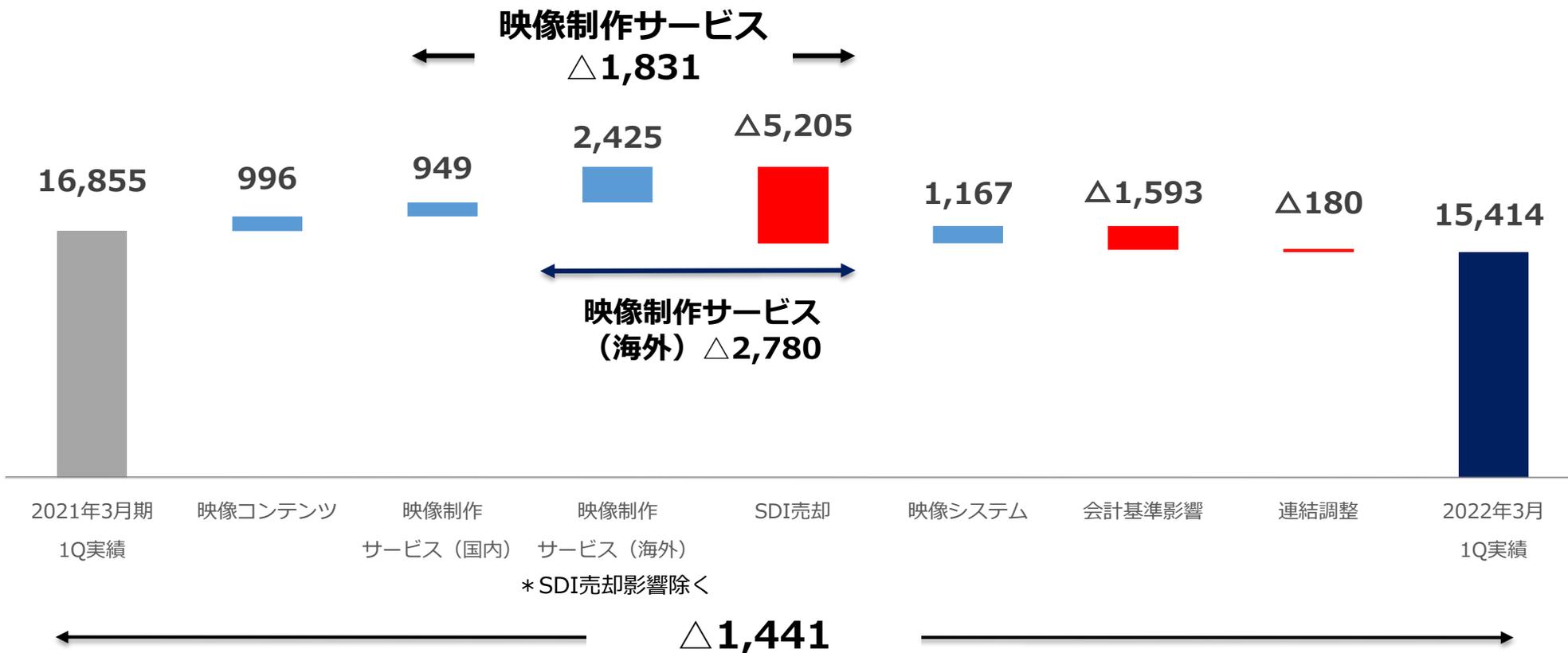


※EBITDA = 営業利益 + 減価償却 + のれん償却 + M&A無形固定資産償却

売上高の増減分析（前年比）

・ SDI売却影響を除くと全セグメントで増収

（単位：百万円）

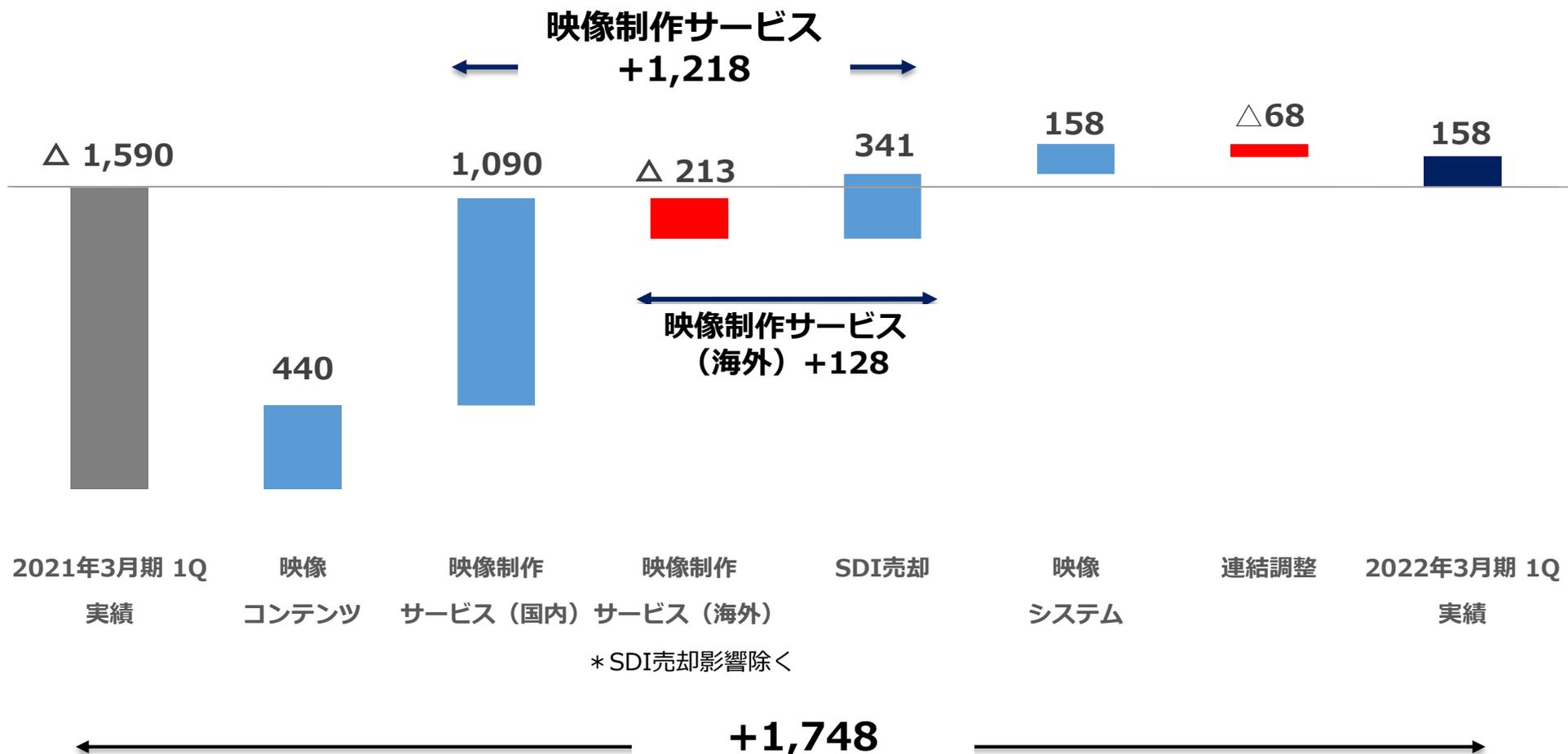


- ✓ SDI売却により52.0億円、会計基準変更影響*1により15.9億円減収
- ✓ 映像制作サービスはグローバルE2Eサービス*2が好調にスタート

のれん償却前営業利益の増減分析（前年比）

- 全セグメントで増益、特に映像制作サービスは構造改革*³で大幅改善

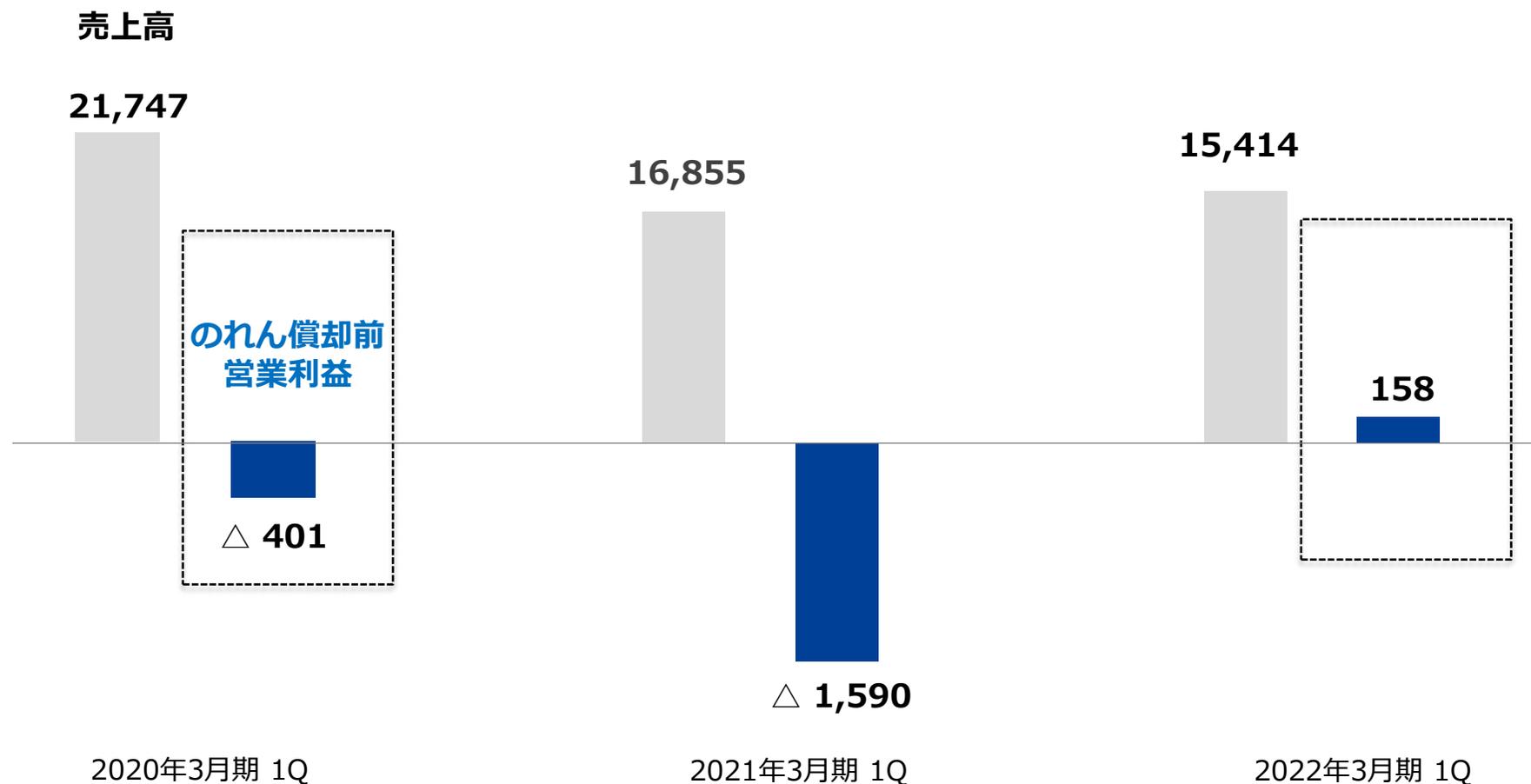
(単位：百万円)



2020年3月期1Q（コロナ禍前）との対比（全社ベース）

- のれん償却前営業利益は、映像制作サービスにおけるグローバルビジネス体制の再構築*⁴と構造改革*³により、コロナ禍前より改善

(単位：百万円)

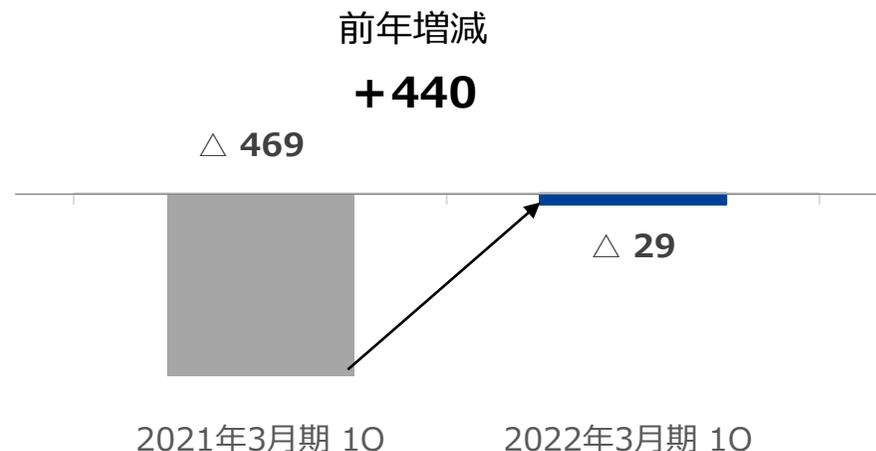
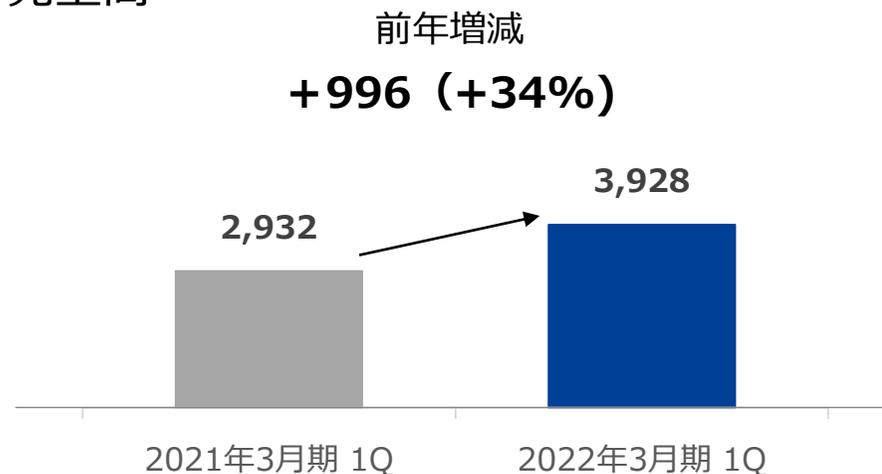


- CM制作や音楽関連の受注が回復し増収
- 前年コロナ禍からは、コスト削減効果含め大幅利益改善

(単位：百万円)

売上高

のれん償却前営業利益



- ✓ 広告市場の活性化によりCM制作の受注が回復
- ✓ 劇場公開作品・ドラマ作品は一部の作品が2Q以降に期ズレ
- ✓ オンライン配信の音楽ライブやミュージックビデオの撮影の受注が好調に推移
- ✓ 2020年3月期（コロナ禍前）まで利益水準が回復（のれん償却前損失△31百万円）

映像制作サービス事業（四半期業績）

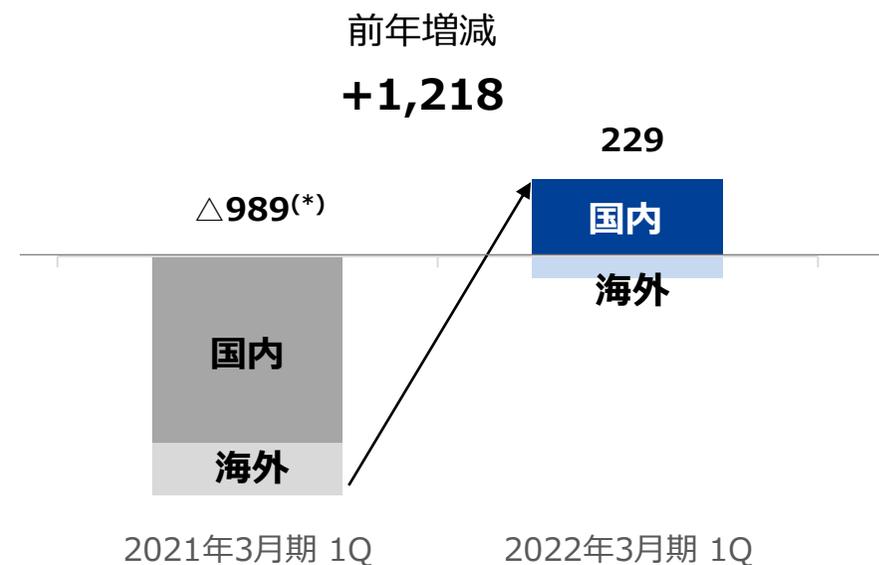
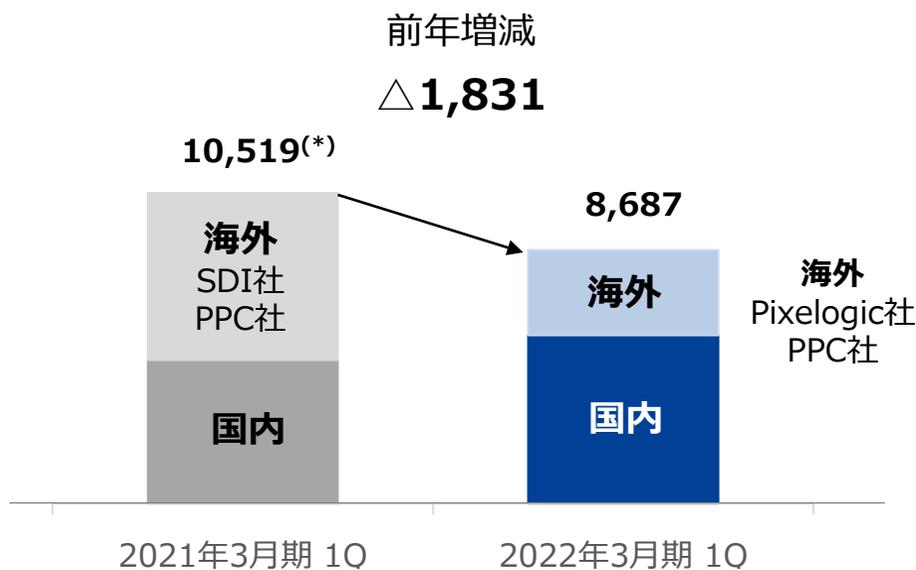
- SDI売却により減収も、グローバルE2Eサービス*²好調に加え構造改革効果もあり大幅増益

(単位：百万円)

売上高

のれん償却前営業利益

数値は国内・海外の合算

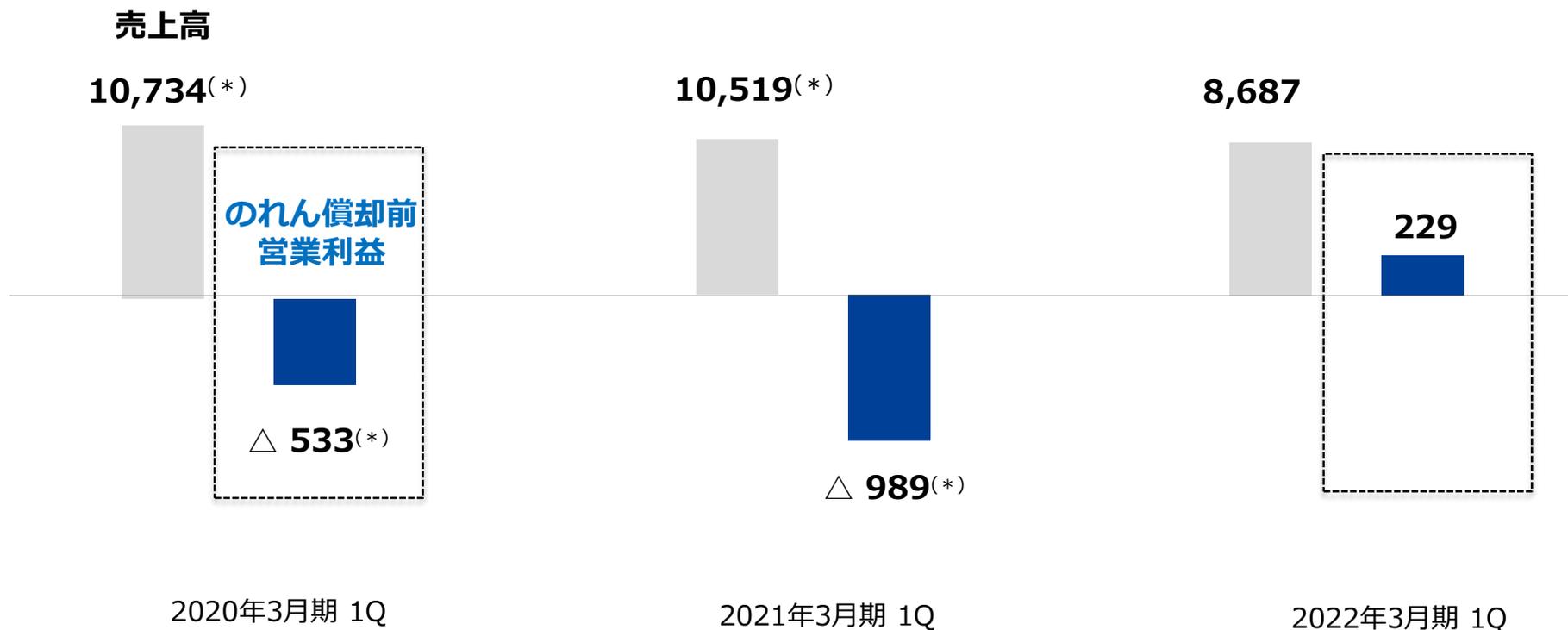


- ✓ 国内では、Pixelogicとの連携等により、動画ファイルの圧縮・変換等のエンコードやローカライズの受注が拡大、TV番組とTVCM向けポスプロの受注が増加し、構造改革効果もあり利益が大幅に改善。
- ✓ 海外においてはSDI売却により減収も、Pixelogicの動画配信事業者*⁵向けサービスが好調。
- ✓ 収益は欧米におけるコロナ影響でPPC（映画予告編制作）は悪化するも、Pixelogicのローカライズ事業が好調

2020年3月期1Q（コロナ禍前）との対比（映像制作サービス事業）

- のれん償却前営業利益は、グローバルビジネス体制の再構築*⁴と構造改革*³により、コロナ禍前より改善

(単位：百万円)

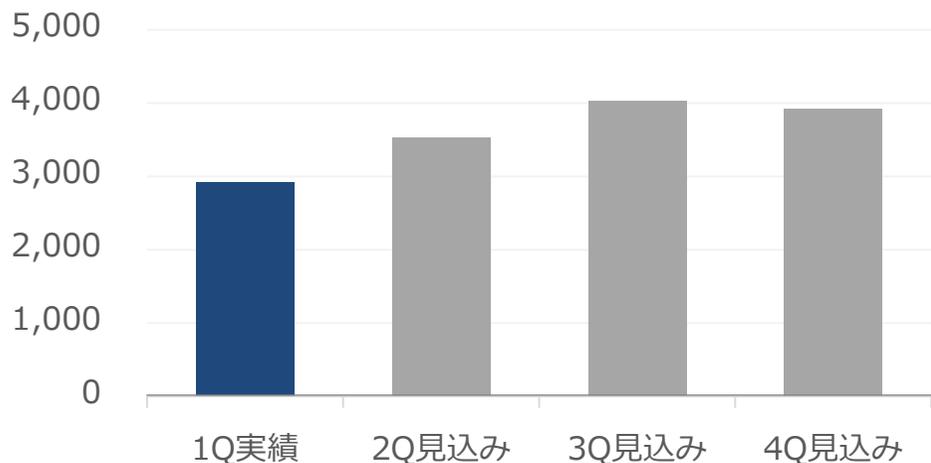


* 子会社のセグメント変更により、2020年3月期1Q及び2021年3月期1Qの「映像制作サービス事業」の売上高、営業損益から株式会社イマジカ・ライブを除外しております。 10

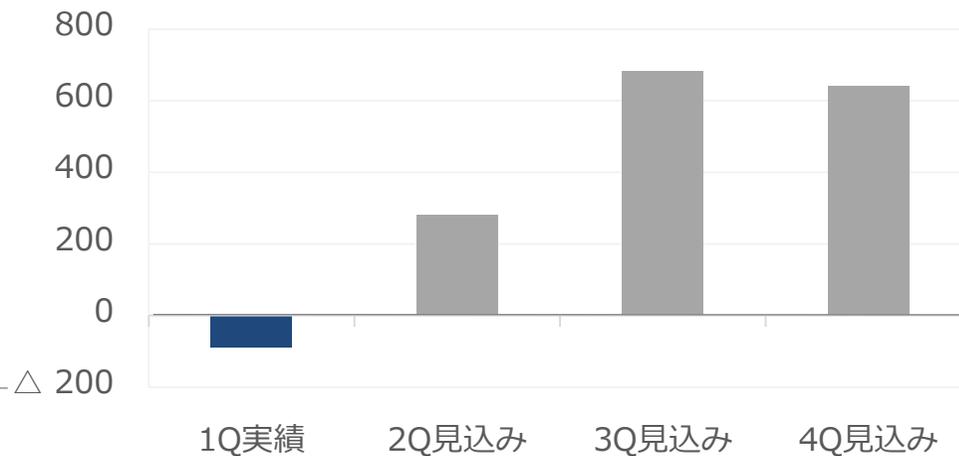
- 欧米での映画関連ビジネスの回復に伴い、2Q以降は黒字・増益を見込む

（単位：百万円）

売上高



のれん償却前営業利益



- ✓ 動画配信事業者*5向けのサービスは2Q以降も受注が好調に推移の見込み
- ✓ 2Q以降は欧米での映画館再開・新作公開によるディストリビューションサービス*6・デジタルシネマサービス*7の受注増加を見込む

・ 会計基準変更影響*を除くと11億円の増収

(単位：百万円)

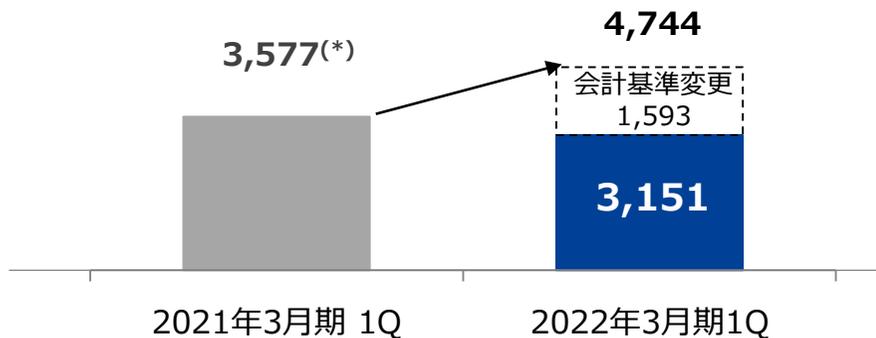
売上高

前年増減

△426

会計基準影響*除くと

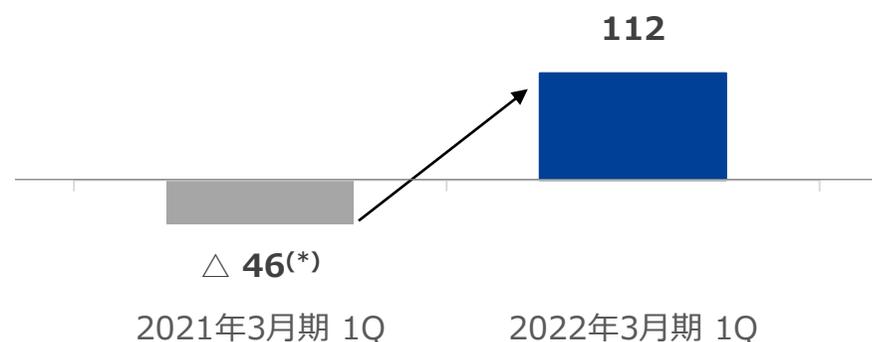
+1,167



のれん償却前営業利益

前年増減

+158



- ✓ CMオンライン送稿*⁸はマーケットニーズ拡大により受注が堅調に推移
- ✓ ハイスピードカメラは国内不振もアジア・欧米は回復
- ✓ 映像・画像処理LSI売上は国内、北米、韓国を中心に好調

* 会計基準変更影響：モバイル通信回線売上を純額で計上したことによる影響

* 子会社のセグメント変更により、2021年3月期1Qの「映像システム事業」の売上高、営業損益には株式会社イマジカ・ライヴを加えております。

2022年3月期 連結業績予想の修正

● 営業外収益と特別利益計上等により経常利益、当期純利益を修正

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期				
	実績	5/13開示 業績予想	前年 増減額	通期予想	5/13開示 増減額	5/13開示 増減率
売上高	86,727	75,000	△11,727	75,000	0	0%
営業利益 (営業利益率)	△ 1,084 (%)	1,500 (2.0%)	2,584 -	1,500 (2.0%)	0 -	0 -
経常利益	△ 1,343	1,300	2,643	2,000	*1 700	53.8%
親会社株主に帰属する当 期純利益又は純損失	3,454	800	△2,654	2,000	*2 1,200	150.0%
1株当たり当期純利益又 は純損失 (円)	77.89	18.02	△58.87	45.06	27.04	150.0%
のれん償却前営業利益	320	3,100	2,780	3,100	0	0

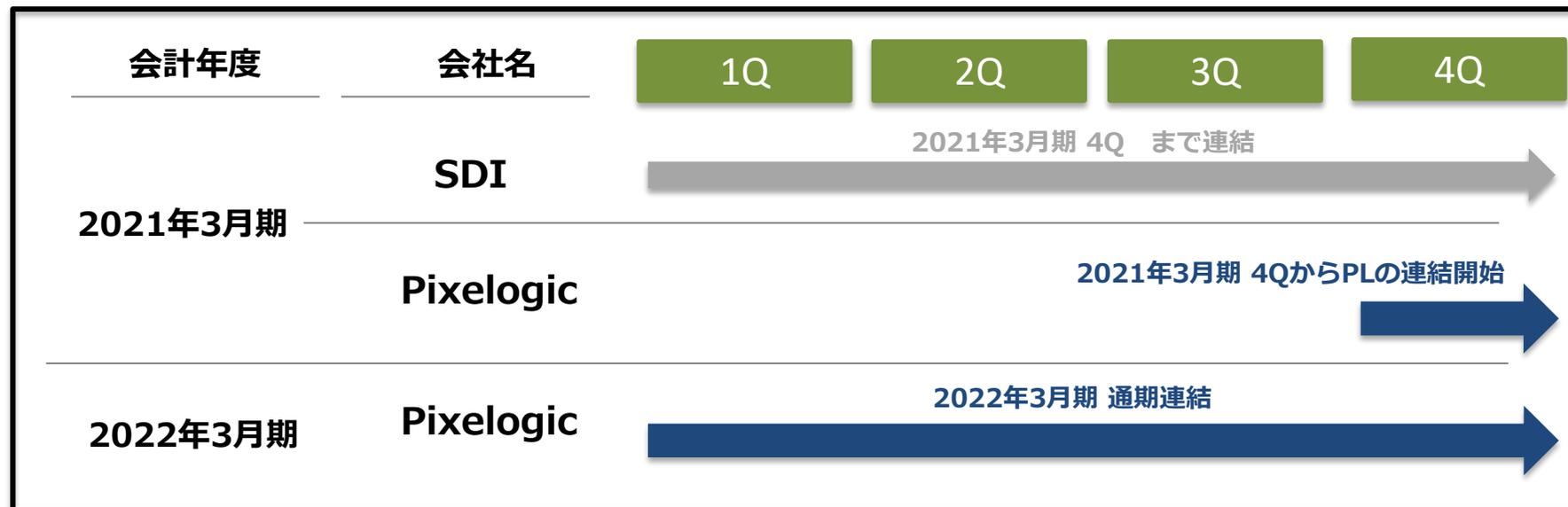
* 1. 経常利益の増額理由 : PixelogicにおけるCOVID-19政府支援策を活用した融資の債務免除により約640百万円の助成金収入を2Qで計上予定 (詳細は2021年8月3日に開示したリリースをご参照)

* 2. 当期純利益の増額理由 : 関係会社株式売却益357百万を1Qで計上、投資有価証券売却益395百万円を2Qで計上予定 (詳細は2021年7月12日に開示したリリースをご参照)

Appendix.

(参考) 映像制作サービス事業での海外子会社の異動

- ✓ E2Eサービスを展開するPixelogic社について、2021年3月期 4Qより損益の連結を開始
- ✓ SDI社については、2021年3月末に全株式を売却し、連結の範囲から除外



* Pixelogic社は決算日が12月31日であるため、当第1四半期連結累計期間には、2021年1月1日～2021年3月31日の実績を反映

連結損益計算書

(単位：百万円)	2021年3月期1Q	2022年3月期1Q		
	実績	実績	前年増減額	前年増減比
売上高	16,855	15,414	△ 1,441	△8.6%
売上総利益 (売上総利益率)	3,357 19.9%	4,386 28.5%	1,028	30.6%
営業損失 (営業利益率)	△ 1,868 —	△ 255 —	1,613	—
経常損失 (経常利益率)	△ 1,942 —	△ 285 —	1,656	—
特別利益	0	358	358	54281.3%
特別損失	90	4	△ 86	△95.5%
税金等調整前当期純利益/損失	△ 2,031	69	2,101	—
親会社株主に帰属する当期純利益/損失	△ 1,213	499	1,712	—
(参考)のれん等償却前営業利益	△ 1,590	158	1,748	—

連結貸借対照表

(単位：百万円)		2021年3月期末	2022年3月期1Q末	前期比	主な増減要因
資産の部	流動資産	30,440	29,056	△ 1,384	現金預金 △1,109 受取手形、売掛金及び契約資産 △3,215
	うち現預金	6,908	5,799	△ 1,109	たな卸資産 +2,413 その他 +526
	固定資産	30,005	31,679	1,674	投資有価証券 +126 関係会社株式 △769
	うちのれん	12,048	12,727	678	繰延税金資産 +427
資産合計		60,446	60,735	289	
負債の部	流動負債	22,117	21,389	△ 727	支払手形及び買掛金 △63 短期借入金 +1,498
	うち短期借入金	7,402	5,904	△ 1,498	未払法人税等 △75 前受金 △2,811
	固定負債	8,495	8,034	△ 461	
	うち長期借入金	5,384	4,977	△ 407	長期借入金 △407
負債合計		30,613	29,424	△ 1,189	
純資産の部	株主資本	27,149	27,739	590	(参考) 自己資本
	その他包括利益累計額	301	1,144	842	2021年3月期末 27,450 (45.4%)
	新株予約権	11	11	—	2022年3月期1Q 28,883 (47.6%)
	非支配株主持分	2,370	2,416	45	
	純資産合計	29,832	31,311	1,478	
負債純資産合計		60,446	60,735	289	
ネット資金		△ 5,878	△ 5,082	796	(現預金 - 長短期借入金)

セグメント別総括

(単位：百万円)		2021年3月期1Q	2022年3月期1Q			参考
		実績	実績	前年比増減	前年比増減率	
映像コンテンツ事業	売上高	2,932	3,928	996	34.0%	
	営業損失 (営業利益率)	△ 469 —	△ 30 —	438	—	
	のれん等償却前営業損失	△ 469	△ 29	440	—	
映像制作サービス事業	売上高	* 10,519	8,687	△ 1,831	△ 17.4%	+3,373(+63.5%)
	営業損失 (営業利益率)	△ 1,267 —	△ 174 —	1,092	—	* SDI売却を影響を除いた 場合の増減
	のれん等償却前営業利益/損失	△ 989	229	1,218	—	
映像システム事業	売上高	* 3,577	3,151	△ 426	△ 11.9%	+1,167(+32.6%)
	営業利益/損失 (営業利益率)	△ 46 —	103 3.3%	149	—	* 会計基準変更を除いた場 合の増減
	のれん等償却前営業利益/損失	△ 46	112	158	—	
その他	売上高	△ 172	△ 353	△ 180	—	
	営業損失	△ 85	△ 153	△ 68	—	
連結合計	売上高	16,855	15,414	△ 1,441	△ 8.6%	
	営業損失	△ 1,868	△ 255	1,613	—	
	のれん等償却前営業利益/損失	△ 1,590	158	1,748	—	

*子会社のセグメント変更により、2021年3月期1Qの「映像制作サービス事業」「映像システム事業」「その他」の売上高及び営業利益/損失を変更しております

配当方針

当社グループは、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要事項のひとつと位置づけております。配当につきましては、連結業績に応じた利益配分を基本としたうえで、連結配当性向の目標を30%とし、安定した配当の維持と配当水準の向上を目指しております。

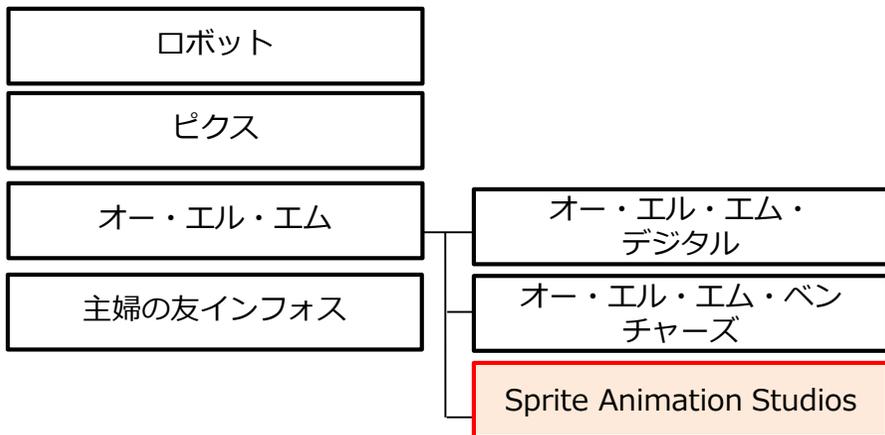
なお、特別な損益等の特殊要因が当期純利益に大きく影響を与える場合は、配当の決定にあたり、基本的に特殊要因を考慮した配当性向を踏まえ、株主様への安定的な配当と今後の事業展開や内部留保の状況などを総合的に勘案し決定いたしております。

**配当については、上記方針に基づき、2021年5月13日に公表しております
2022年3月期の配当予想（5円）に変更はございません。**

事業セグメント別 連結子会社一覧 (2022年3月期)

映像コンテンツ事業

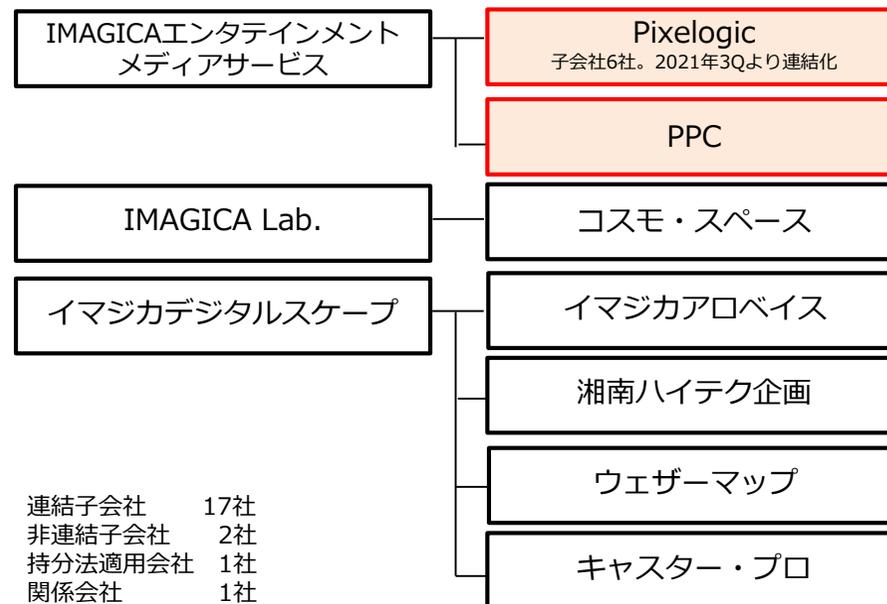
映画、アニメ、CM、TVドラマ、プロジェクションマッピング等のエンタテインメント映像の企画・制作



連結子会社 8社
非連結子会社 3社

映像制作サービス事業

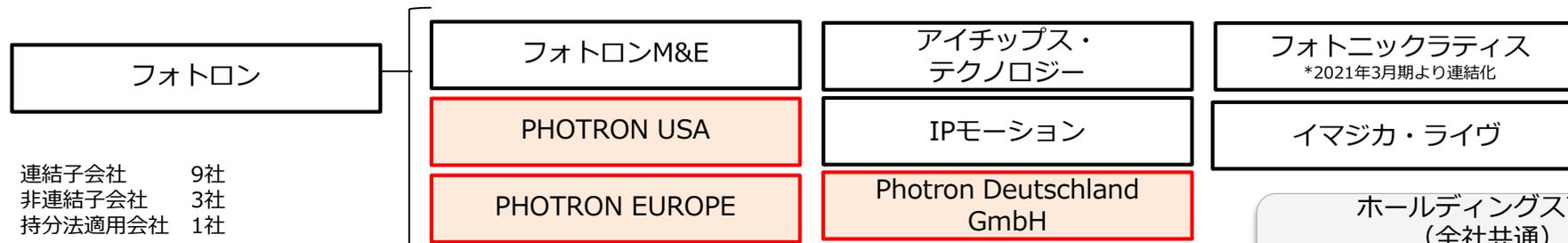
映像・音声編集、CG制作等の映像加工、字幕・吹替、配信・流通サービス、撮影、中継、ゲーム制作、人材派遣



連結子会社 17社
非連結子会社 2社
持分法適用会社 1社
関係会社 1社

映像システム事業

放送局向け映像機器の設計～導入、ネットワーク回線を活用した映像伝送、映像編集クラウドシステム構築など映像システムソリューション全般。独自技術のハイスピードビデオカメラの開発製造事業CAD、画像関連LSI事業



連結子会社 9社
非連結子会社 3社
持分法適用会社 1社

ホールディングス直轄
(全社共通)
IMAGICA EEX
*2021年3月期より連結化

*赤枠は海外グループ会社

*1.会計基準変更影響

会計基準変更により、映像システム事業におけるモバイル通信回線売上を純額で計上したこと等による影響を指します。

*2.グローバルE2Eサービス

End to End。映画・ドラマ・アニメーション等の映像コンテンツを制作するポストプロダクションから、それらを劇場、テレビ、インターネットを介した動画配信などあらゆるメディアで流通させるために必要なローカライズ(吹替、字幕制作)、ディストリビューション(流通)のためのメディアサービスまでをワンストップで提供するサービスの総称を指します。

*3.構造改革

本資料に記載されている構造改革は、[2021年1月22日付「新会社\(子会社\)設立と映像制作サービス事業の構造改革、グループ事業再編の実施及び当社と連結子会社の希望退職募集に関するお知らせ」](#)に記載のとおり、当社グループの持続的な成長並びに業績回復の実現を目的とし、映像制作サービス事業にて実施した希望退職を指します。

*4.グローバルビジネス体制の再構築

2021年5月19日に開示した「2020年度 決算説明会」14ページに記載のとおり、Pixellogicの連結子会社化、SDI売却、IMAGICAエンタテインメントメディアサービス設立により構築したグローバルビジネス体制を指します。

*5.動画配信事業者

インターネットを介したプラットフォームにて動画配信を行う事業者を指します。

*6.ディストリビューションサービス

劇場、インターネットを介した動画配信、DVD/BDパッケージなど、あらゆるメディアで映像を流通させるために必要なエンコードやオーサリング、パッケージング等を指します。

*7.デジタルシネマサービス

劇場にてデジタル上映を行うためのDCP(Digital Cinema Package) 作成やDCPデリバリー、KDM(Key Delivery Messageの略で、DCPの暗号を解除するための鍵)配信等のサービスを指します。

*8.CMオンライン送稿

オンライン上でテレビCM素材等を放送局へ搬入するサービス(フォトロンで提供しているサービス：C.M.HARBOR)を指します。

2021年4月～ 主なグループTOPICS

2021/04/05
P.I.C.S.

P.I.C.S. 企画・原作TVアニメ「オッドタクシー」が2021年4月～6月、テレビ東京の深夜帯にて放送。現在、Amazon Prime Videoにて、見放題独占配信中！



*2021年7月現在

アニメーション制作は、P.I.C.S. × OLMが担当

© P.I.C.S. / 小戸川交通パートナーズ

2021/05/26
フォトロン

学習動画共有プラットフォーム「CLEVAS」、Zoom 連携に対応した新バージョンを教育・研修機関向けに発売開始



2021/06/01
IMAGICAエンタテインメント
メディアサービス

IMAGICA SDI Studioを吸収合併し、「汐留サウンドスタジオ」として営業開始



2021/06/07
IMAGICAエンタテインメント
メディアサービス、IMAGICA Lab.

映像技術・音響技術のコンクール「第25回 JPPA AWARDS 2021」にて各賞を受賞



2021/06/22
IMAGICAエンタテインメント
メディアサービス

国内初！没入感を高めるサラウンド音響を実現するDTS:Xシステムを試写室に導入



2021/06/29
IMAGICA GROUP

CGとインタラクティブ技術に関する国際会議 SIGGRAPH Asia 2021にゴールドスポンサーとして参画。当社グループの最新技術や産業分野への応用事例を多数ご紹介予定



2021/06/30
イマジカデジタルスケープ

ソフトウェアテストに関する国際的な資格認定団 (ISTQB) よりSilver Partnerに認定。ゲーム・Web・アプリ等のテスト業務の拡大を目指す



2021/07/15
ROBOT

ROBOTマネージメントの小林 勇貴 が監督を手掛けるABEMAオリジナルシリーズ新作ドラマ『酒癖50』が放送開始



お問い合わせ先

株式会社IMAGICA GROUP グループ経営管理部

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-3-2 内幸町東急ビル11階

T E L : 03-6741-5742 F A X : 03-6741-5752

Email : ir@imagicagroup.co.jp

URL : <https://www.imagicagroup.co.jp/>

【将来予測について】

本資料に記載されている当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。